

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170500987		
法人名	有限会社 シルバーバック		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	札幌市清田区真栄1条2丁目2-28 (電話) 011-888-8480		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(平成20年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年7月15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.6人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階建ての	1 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~40,000円	その他の経費(月額)	16,000円	
敷金	有(円)	無	(暖房費別途)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	100円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(1月29日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	2名	要介護2	1名			
要介護3	3名	要介護4	3名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	81.4歳	最低	73歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小野内科・美しが丘整形外科・ラビット歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

さくらの里は、利用者が地域社会の一員として生活することを支えながら主体的な決定を行なえる支援をし尊重することを柱にケアサービスが展開されています。地域密着型サービス導入前の開設時より利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りや事業所と地域が支えあう双方向の関係を大切にして運営が行なわれています。認知症状の緩和に対して多様な領域の視点で取り組み、介護計画に当たっては過去に遡り現状との関係性を十分点検をして作成されているのも特徴的です。また、職員が利用者に対し温かい眼差しでゆっくり、ゆったりと自立支援に努めている姿や利用者や職員が寄り添い楽しい会話をする様子など、桜の里のような日本の懐かしさを感じさせるホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価については、権利・義務の明示についての改善課題がありました。事業者は利用契約書の第14、15条において利用者及び利用者代理人の権利、義務を明示すると共に契約時に条文に則り関係者へ説明がされ、改善に取り組み対処されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が評価の意義やねらいを周知し、職員全員が個々に自己評価を実施しています。自己評価の項目を掘り下げた意見交換が行なわれ総合的に管理者が纏めあげています。評価一連の過程を通じてサービス向上に結びつける取り組みが行なわれています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 主な討議内容は、利用者及びホームの状況、年間活動、外部評価についての報告のほか、自己評価の中で取り組んでいきたい項目についてメンバーからの評価を得るなど運営推進会議の意義が果たされつつ開催されています。認知症の理解を地域として深めるため、関係者と協働でキャラバンメイトを実施する取り組みも協議がされ第4回目の会議を年度内に予定をしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム内、外部に苦情相談機関を整備し、苦情処理規定にもとづき、表出された案件は職員全員で話し合い検討をして改善に結びつける体制を確保しています。家族連絡ノートの活用で利用者へのサービス状況を報告するとともに家族から意見や不安などを気軽に出示してもらい相互的な意見交換が日常的に行なわれ運営に反映されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常生活における地域との連携が大変良好に保たれています。町内会に加入し役割を担うとともに、町内会行事とホーム行事での双方向的な交流や幼稚園児の訪問交流、地元ボランティアの活動の受け入れなどホーム機能を活かしながら交流に努めています。地域高齢者が気兼ねなくホームを訪れ、利用者と時間を共有し合うなど自然なお付き合いがされています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域密着型サービスの重要性を認識し、地域においての生活を大切にすることを盛り込んだ事業所独自の運営理念を標榜し、ケア理念については全職員で作りにあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時にホームの運営理念、およびケア理念を説明し伝えている。職員は日々のミーティングや実践の中で意見統一や話し合いを行ない具現化に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域で暮らし続けるための基盤が整っており、地域活動や人との係わりを積極的に持ち、地域で必要とされる活動や役割を担っている。事業所と地域が支えあう双方向の関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価のねらいや活用方法について職員に周知し、自己評価では一項目ごと確認をしながら全職員が実施し管理者が纏めあげている。また、評価一連の過程を通じての質の確保や改善に取り組んでいる。		

札幌市清田区 グループホーム さくらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域、家族から積極的な参加・意見が得られており運営やサービス状況報告のほか、メンバーと協働したキャラバンメイトが開催される予定があり、サービス向上に対し建設的な意見討議が実施されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市や区のグループホーム管理者会議で係りを務め積極的に会議などに参加をしている。市の介護保険課とは情報の交換によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との連絡ノートや月に一度「ホーム便り」を発行し利用者の暮らし振りや健康状態などについて家族に報告している。金銭管理については定期的に収支報告書を送付している。また、利用者の健康状態に変化があった場合はその都度家族に連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日頃から利用者家族が気軽に何でも話せるような雰囲気作りに努めている。内部、外部に苦情相談機関を整備し苦情や意見などを受けた場合はホーム全体で対応方法を協議し改善に努めている。家族との連絡ノートが活用され家族がより意見を伝え易いよう配慮をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない離職の場合は、引継ぎを十分行ない職員全員で利用者をサポートをして、ダメージの緩和に配慮をしている。運営者は、資格給を導入し労働環境の整備を図り、職員の定着や馴染みの職員が継続的に支える体制に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の能力や経験に応じて、その職員に適した内容の研修を受講するよう促している。受講後は研修内容を報告・発表し、職員全員が共有できるようにしている。内部研修では、採用時研修でグループホームについての説明からはじまり、詳しく充実した研修が行なわれている。また、現状で、今、必要なことを職員全員で勉強し、毎日のケアに活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流の必要性を認識しており、区の管理者会議や連絡会に出席した際に連携を図りネットワーク作りに努めている。ほかのグループホームとは利用者とともにお茶を飲み、相互訪問し合うなどケアサービスに繋がる交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人のホーム見学や面談を実施し、本人の納得を得てサービスが開始できるよう時間を掛けて利用調整を行なっている。職員は利用者が一日でも早くホームに馴染めるよう、本人の生活歴や心情に配慮しながら信頼関係構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の自主性の引き出しに努めており生活をともにする中で、年長の利用者から生活の技や知恵、生活文化を教えてもらいながら過ごしている。利用者が職員に労いの言葉を掛ける場面もあり、暮らしの中でお互いを分かち合い支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとゆっくりと話す時間をもち希望や思いを大切に利用者中心の暮らしを支援している。職員は日々の気付きを共有しながらアセスメントし検討している。表出が困難な場合は、非言語的コミュニケーションにより把握に努め検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時は、ホームの生活に慣れることを目標に1ヵ月を目処として、生活状況を把握しながら解決すべき課題を抽出し、利用者や家族の要望を聞き生活援助計画を作成している。そのケアプランを、個別記録ファイルの前面に綴じ、プラン内容に沿ったケアや記録ができるよう配慮されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行ない、生活見直しシートで33項目のチェックをし、それをもとに会議でケアプランの評価・見直しを行なっている。また、毎朝のミーティングで、利用者の状況把握と利用者一人ひとりに対しての今日すべきことの話合いを丁寧に行ない、ケアプランに沿ったケアを実践し、見直し時期以前に変化が生じた場合は即対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスでは、本人、家族の状況に応じた通院支援、希望に応じた個別の外出支援を行なっている。また、馴染みの理美容室の送迎や外泊など柔軟な支援が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科、精神科などを含めた希望の掛り付け医への受診や訪問口腔ケア診療体制を整え、受診後は受診記録簿により家族との情報伝達や合意を図り適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、事象発生時に医療機関や家族と相談をしながらケースに応じて対応をしている。家族とは口頭でその都度意向を確認し共有を図り合意を得ている。合意形成の同意書やホームの対応指針の文書化について取り組みは実施されていない。	○	重度化や終末期をどのように迎えたいかを本人や家族の意向を受けながら医療機関などへの利用移行へ繋げ安心して終末期を迎えられるよう取り組んでいるが、今後はホームとしての指針書作成や同意文書などの整備計画に取り組む意向があるのでその実現化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを傷つけるような言葉掛けや対応がないよう十分配慮しており、本人の情報を取り扱う場合は、使用する目的や条件を明記した情報提供同意書のもと、法令を遵守してプライバシーの徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、職員本位のケアを行わず、利用者が望む過ごし方ができるよう努めている。喫煙を希望する場合は職員見守りのなか支援され、喫茶店への外出や買物なども曜日や時間を取り決めず意向による支援をできる限り行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の調理担当者が利用者の希望を取り入れながら献立を作成している。買物から後片付けまでの食事一連の流れを利用者の状態に応じて一緒に行なっている。天候の良いときはホームの庭で食事やお茶をしたり、外食や行事食など変化をつけ楽しみな物になるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯の制限はあるが週5日間入浴できる日を設定している。利用者の希望や状況に配慮し入浴を拒む場合は足浴や清拭などで清潔保持に努めている。利用者一人ひとりに合った言葉掛けを行ない入浴の促し、安心して入浴できるよう工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	屋内外活動、趣味、特技などをカテゴリ別アクティビティ一覧に表わし喜びや生きがいに繋がる場面を作り、家事や畑仕事、水墨画、リハビリエステなどの役割や楽しみごとを利用者の有する力を踏まえ支援をしている。日常の触れ合いの中で交わされる回想法を交えた職員との会話が利用者の和みや心身活性に繋がっているのが覗がえる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出掛けることや外気に触れる重要性を理解しており、さまざまな場所へ目的を持って外出している。日々の買物や散歩、ドライブのほか、日帰り温泉、外食など五感刺激の機会をふんだんに取り入れた支援が行なわれている。また、冬期間においても積極的に外出支援が行なわれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は一般家庭と同様、防犯のため19時～翌朝6時まで施錠をしているが、日中は施錠はしていない。ホーム前は交通量の多い道路に面しているが、利用者の危険認識保持への支援や外出傾向の把握、職員の見守りの中で鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		

札幌市清田区 グループホーム さくらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼夜想定の実践的な避難訓練が消防署の協力のもと実施されている。運営推進会議を通じて災害時の地域協力を呼び掛ける取り組みが行なわれているが、協働での避難訓練については現在計画の段階である。災害に備えた飲料水は日常的な備えとして確保されている。	○	地域住民との連携を図り災害時における協力体制を強化する取り組みの予定があるので実施されることを期待する。飲料水以外の災害備蓄品の確保なども望まれる。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの飲水量はその都度、食事摂取量は必要ケース時に記録しトータルバランスの確認をしている。食事が少ない場合はミーティングで話し合い適切な支援に努めている。普通食が困難な際はあらかじめ食の提供など様子を観察しながら個別の支援を行っている。カロリーなどについては過去に栄養士に相談したメニューを取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリーニング店を改造して作られているので、玄関が開放的で入りやすく、立ち寄りやすい雰囲気になっている。トイレ・浴室の手すりは、利用者の身体状況に合わせ、使い易い位置に設置されている。居間は、とても暖かい家庭的な雰囲気で、訪問時にも、テーブルを囲み利用者と職員が楽しく会話する様子が日常的に見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者それぞれの好みや身体状況に合わせて、和室・洋室があり、ベットや転倒防止のためのマットレス布団であったり、フローリングやカーペットにしたりと、安全に快適に過ごせるよう配慮されている。また、使い慣れた家具や電灯、神棚などで居心地よく工夫されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。